第11回ねごろ医用実学研究会講演会

臨床工学技士の職域の拡大を考えるⅦ

『医療情報・遠隔医療と臨床工学技士』

日時：令和2年3月7日（土）13:00
場所：近畿大学生物理工学部 アリーナ
（和歌山キャンパス）　※聴講無料
アクセス：https://www.kindai.ac.jp/bost/access/

【特別講演】

京都大学医学部 教授・医療情報企画部長　黒田　知宏
『遠隔医療は医療をどこに向かわせるのか？』

【特別講演】

富山大学工学部 教授　中島　一樹
『超高齢社会における生活情報の遠隔モニタリングと解析』

【企業講演】

セコム（株） ホームマーケット営業本部 課長　山吉　敬太
『ホームセキュリティにおける救急通報サービス』

セコム医療システム（株） 企画本部 主任　雨面　晴好
『遠隔診療支援プラットフォーム 「セコムVitalook」について』

※学外の方で聴講を希望される方は、お申し込みをお願い致します。
【対象者】医療者・教職員・学生・高校生（保護者）
【申込み方法】①所属、②職名（もしくは学年）、③氏名、④E-mailを明記の上、
下記メールアドレス宛にお申し込みください。
事務局：黒田（E-mail: negoro@waka.kindai.ac.jp)

代表幹事：古薗　勉

講演の要旨

『遠隔医療は医療をどこに向かわせるのか？』

京都大学医学部　黒田　知宏

2018年4月の診療報酬改定は「遠隔医療解禁」と受け止められ、医療全体が大きく変わるかのように報じられた。あれから一年、我々が受ける医療はそう大きく変わったような気はしない。遠隔医療の発展によって何かよいことが起こりそうな漠然とした期待感と、個人情報がインターネットを流れることで何か悪いことが起こりそうな漠然とした不安感が渦巻いている。遠隔医療は医療をどう変え、我々の生活をどう変えようとしているのだろうか？　本講演では、技術・制度の両面において、今起こりつつある変化とその先に垣間見える未来を紐解いてみたい。

『超高齢社会における生活情報の遠隔モニタリングと解析』

富山大学工学部　中島　一樹

超高齢社会となり、健康寿命をどのように延伸するかが注目されている。病気に向かう状態を検出するために、毎日の生活で検査を継続することは容易でない。本講演では長期モニタリングされた血圧、トイレ排泄、テレビ利用について、遠隔からのデータ収集法と収集データの解析結果について述べる。

『ホームセキュリティにおける救急通報サービス』

セコム（株）ホームマーケット営業本部　山吉　敬太

防犯・火災・非常通報を目的とした「セコム・ホームセキュリティ」を1981年に発売。その後オプションとして販売開始された救急通報（マイドクター、みまもりホン）や安否通報を行うサービス等の医療分野に貢献できるシステムを紹介。

『遠隔診療支援プラットフォーム「セコムVitalook」について』

セコム医療システム（株）企画本部　雨面　晴好

遠隔診療支援プラットフォーム「セコムVitalook」

専用スマートフォンと、ワイヤレス通信機能を有する測定機器（心電図や血中酸素飽和濃度等、随時追加予定）により、患者宅等の遠隔地から測定履歴およびリアルタイムデータを参照することができる。測定値のアラート機能やビデオ通話機能の紹介および実機によるデモンストレーションを実施する。